

# 海洋状況表示システムの利活用に向けた有識者検討会

- 内閣府総合海洋政策推進事務局により開催（令和4年10月3日、令和4年12月5日、令和5年1月13日の3回開催）。
- **海洋空間計画の情報基盤**としての「海洋状況表示システム」（海しる）の活用を念頭に、民間事業者、地方公共団体等へのヒアリングや海洋空間計画の海外事例調査の結果を踏まえつつ、新たに搭載すべき機能及び情報等、同システムのあり方について提言・報告。

## 有識者検討会委員

(敬称略、五十音順)

岩浅 有記	大正大学総合学修支援機構DAC 准教授
佐藤 慎司	高知工科大学システム工学群 教授
庄司 るり	東京海洋大学 理事（学生支援・広報担当）・副学長
鈴木 英之	東京大学大学院工学系研究科 システム創成学専攻 教授
照井 健志	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所 特任研究員
牧野 光琢	東京大学大気海洋研究所 教授
(委員長) 道田 豊	東京大学大気海洋研究所 国際・地域連携研究センター 国際連携研究部門長・教授
森田 孝明	長崎大学研究開発推進機構 機構長特別補佐 長崎県産業労働部 参事監
脇田 和美	東海大学海洋学部海洋理工学科 教授

## <現状と課題の整理>

### これまでの取組の評価

- **海しるAPIや海洋教育コンテンツ等**、令和元年度の有識者検討会の提言内容が実現し、海しるの発展につながる。

### 現状把握調査の実施

- 海しるの現在の利用状況や課題、要望の把握を目的とした**聴き取り調査**
- 諸外国の海洋空間のゾーニングに関する**海外事例調査**
- 海しるに必要な情報・機能を検討するために**類似する海外情報システムの調査**



有識者検討会の開催風景

関係行政機関

内閣府、文部科学省、水産庁、資源エネルギー庁、国土交通省、海上保安庁、環境省

# 海洋状況表示システムの利用に向けた有識者検討会 提言の概要

## 海しるが目指すべき方向性

### ① 広範な分野の海洋情報を扱うワンストップ窓口を目指すべき

- 特定目的の情報提供サービスを行う政府内外の機関と協力して、分野横断的な海洋情報の連携を促進する役割を内閣府総合海洋政策推進事務局に一層期待。
- 海洋情報を掲載するだけでなく、それらの情報を政策企画や研究調査等に活用した事例も提供できると良い。

### ② 海洋における様々な取組を支援する情報基盤を目指すべき

- 海洋空間を持続可能な形で活用することは重要であり、海洋空間の利活用と環境、生物多様性の保全との両輪の取り組みを支援する情報基盤を目指すべき。
- 広範な分野で産官学とも連携し、ユーザ間の持続的なコミュニティを形成し、海しるの利活用の浸透に取り組むべき。各地域の市民レベルで海しるが普及し、市民科学を通じた地域の活性化、延いては地方創生にも役立つことを期待。
- 研究機関や民間企業等、政府以外の機関が所有する海洋情報の反映を促進すべき。官民間わず大量・多様なデータが結びつく共通基盤として、地域のイノベーションに貢献することを期待。

### ③ 誰もがどこでも利用でき、理解と関心を深めることができるツールを目指すべき

- 誰もが容易に操作し、欲しい情報にリーチすることができるツールを実現可能な範囲で目指すべき。
- 年齢や能力、状況等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能なユニバーサルデザインを目指すことが望ましい。
- 新たな通信サービスの普及状況や将来の進展性等を注視しつつ、情報提供の迅速化に向けた対応を検討すべき。
- 研究や商用目的の利用を促進するために、誰もがデータポリシーを理解しやすく、安心して利用できるようにすべき。

## 具体的方策

( )内の丸数字は関連する目指すべき方向性の番号

### ア. 機能向上に関する方策

- 海しるAPIのプログラマブルで利用しやすい形式での提供 (①)
- 海しるの利活用方法の事例掲載 (①、②)
- 凡例や方位記号等、図面表示機能の更なる充実 (②)
- 海洋に詳しくなくても目的の情報にリーチできる情報探索機能やレイヤ色の任意選択機能等の利用者の利便性向上 (③)

### イ. 情報充実にに関する方策

- 情報充実にに向けた国内外のシステムとの連携の推進 (①)
- 情報の追加や時空間分解能の改善に向けた利用者の要望に対する情報提供者と連携した対応 (①)
- 中長期的にトレースできる情報の蓄積 (②)
- 信頼性に関する情報や権利関係の明記等の属性情報の充実 (②、③)
- ローカル情報に対するニーズへの対応 (②)

### ウ. 利活用促進に関する方策

- 産学官連携による新たなニーズや分析方法の把握、持続的なユーザ間のコミュニティ形成 (①、②)
  - 産業団体と連携したセミナーやワークショップ等の開催
  - 海しる利用による大学と連携した海洋分野の人材育成
  - 地図やGIS、海洋政策に関係する学会等、学術団体との連携
  - 地方公共団体、大学等とのワークショップ開催を通じた利活用の好事例の普及
- 海しるの産業利用をテーマにしたハッカソンの開催 (②)
- 夏休みの自由研究コンテストの開催、子ども向けの海しる解説動画の配信等 (③)